

韓国建設技術研究所と連携した知能型掘削システム開発事例など SPAR2008J での発表概要 (RAPIDFORM, JAPAN)

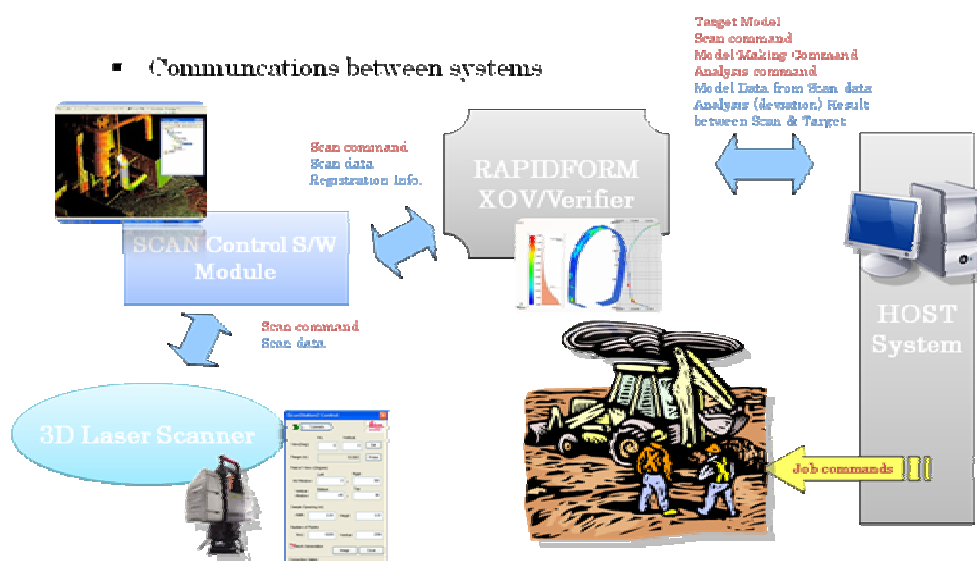
(1) 発表テーマ

- 1) 韓国建設技術研究所と連携した知能型掘削システム開発事例
- 2) 韓国水資源公社のダムの変異分析事例
- 3) Rapidform XOR 基盤のプラント専用モデリングソフトウェアの開発事例

(2) 発表概要

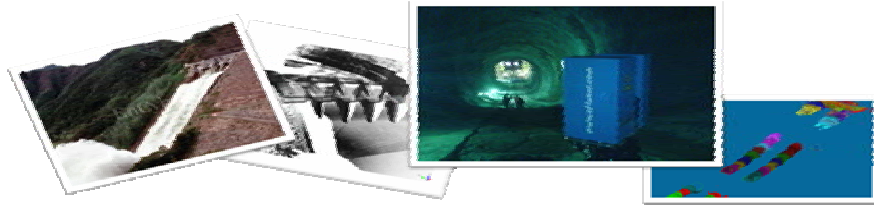
1) 韓国建設技術研究所と連携した知能型掘削システム開発事例の概要

韓国建設技術研究院は韓国のいくつかの重工業会社と共同で国策課題を遂行している。本課題は約15億円位が投資され、今後2011年までを計画しております。本課題の目標はロボット掘削機が既に入力された地盤情報を分析して掘削作業を自動でできるようにする研究課題。このとき地上型スキャナ(Leica Scanstation2)は既に入力された地盤情報と現在変形された地盤の間の変異量を計算するための核心的な測定道具として使用された。Rapidform XOR は初期の目標地盤とスキャナから入力された現在の地盤を分析してロボットコントローラーに情報を提供。2007年現在 Leica スキャナと Rapidform XOR 間のインターフェースが完成した状態。



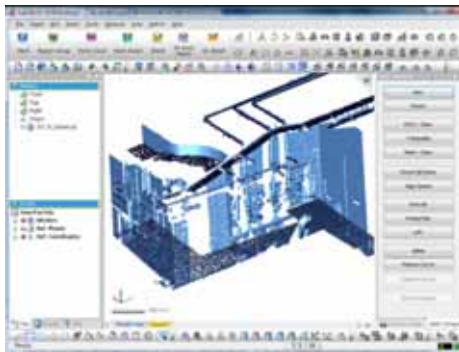
2) 韓国水資源公社のダムの変異分析事例の概要

韓国水資源公社で既存に建てられた大型ダム(ソヤンガンダム)に対する検査を Riegle 社の地上型スキャナと Rapidform XOR で遂行した。ダムの場合も水圧や気温、季節などによって変形があるらしい。その変形を測って今後のダム建設やリニューアル、安全性評価などに活用できるようにするというのがこの研究の目的。

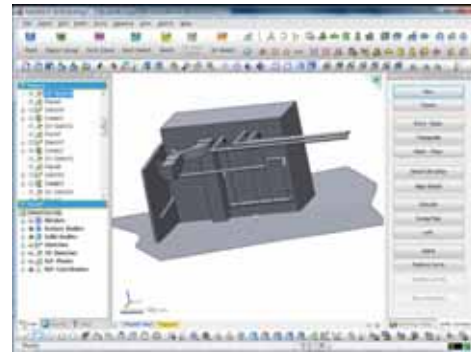


3) Rapidform XOR 基盤のプラント専用モデリングソフトウェアの開発事例の概要

最近工場などのリニューアルなどが盛んにおこなわれて地上型スキャナの活用度が高まっている。しかし、こういった地上型スキャンデータを活用したプラントモデリング専用のリバースエンジニアリングソフトはめったにないのが現実。そこで工業用リバースエンジニアリングソフトウェアである Rapidform XOR をカスタマイズしてプラントや橋梁などをリバースモデリングできるソフトウェアを開発した。その事例を紹介する。

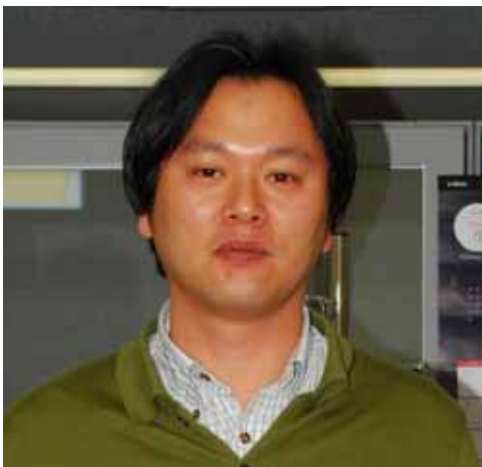


<初期スキャンデータ>



<リバースモデリング完成データ>

(3) 発表者



(4) 自己紹介

- a. 名前: 李守鍾(リースジョン)
- b. 組織名所属: RAPIDFORM, JAPAN(INUS Technology., Inc.の日本事務所) 所長
- c. 連絡先(住所、電話、e-mail)
 - TEL: 03 - 3539 - 5521
 - FAX: 03 - 3539 - 5522
 - E-mail: justinjr@inustech.com
 - ホームページ: www.rapidform.com

d. 簡単な会社及び自己紹介

(株) アイナステクノロジーは1998年度に韓国のソウルに設けられた会社。

設立当時から現在に至るまで Rapidform という3次元スキャナ専用のリバース及び検査専用のソフトウェアを開発し販売してきた。現在の主な製品としては rapidform XOR(Redesign, リバースエンジニアリング専用ソフトウェア)と rapidform XOV(Verifier, 3次元検査専用ソフトウェア)。

RAPIDFORM,JAPAN は(株) アイナステクノロジーの日本事務所として日本での rapidform の販売に関する代理店サポート、ユーザサポート、管理、広告などの役割を果たす組織として東京に在沖。その所長を務めている私(李守鍾)は(株) アイナステクノロジーの初期メンバーとして役割を果たして来ており、現在は日本での rapidform の普及に邁進している。点群処理ソフトウェアをこの業界に普及するのにソフトウェア的に貢献をしたと自負する上で、今までの弊社の経験やノウハウなどが発表されることによって多少は SPAR を構成するメンバーの皆様方に役に立てればと思っている。